

新たな取組み

太陽光パネル設置
社会へアピールも

による太陽光発電などの自己投資はゼロです。

——新たな取組みについて。

加藤 当社は環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証も取得しています。当然、環境への負荷軽減としてさまざまな取組みを行っていますが、このほど、本社に隣接する飛鳥第二センターの屋根に太陽光発電パネルを設置しました。「屋根貸し」

確かに自己投資のほうが入りも大きいですが、国の制度がこの先どうなっていくのかわからない方法を選びました。太陽光発電パネルの設置は、センター内の温度上昇を防ぐ効果もあるし、当然、再生可能エネルギーなので地球環境の保全にもなります。

一般的な物流センター

ーの太陽光パネルの発電量は50kWですが、当社の飛鳥第二センターの太陽光発電による出力は40.8kWに達します。これは太陽光発電に携わっている人なら少し驚く数値だと思います。

加えて、来年1月完成予定の一宮の物流センターの屋根には91.8kWを出力するソーラーパネルを設置します。メガソーラー（大規模太陽光発電）が1000kW以上ということとを考えると、それに

迫る規模になるのでインパクトは大きいと思います。太陽光発電パネル設置には社会的なアピールができる副次的要素もあり、会社のイメージ向上にも寄与してくれと考えています。

行っています。きめ細かな運行管理によってトラックの燃費も向上し、1.0当たり中型が6.8km、小型が8kmを達成しています。業界の平均値は分かりませんが、おそらく他社より1.2kmぐらいは良いと思います。

ライバーさんにいち早く増t車に乗ってもらえるようにしています。現在、当社の約4

割が増t車に切り替わっています。今後数年で100%にしたいです。

社内の取組み・教育

4t車から増t車
急ピッチで切替え

——社内の取組み・教育について。

加藤 社員教育には時間もお金をかけてい

ます。全営業所のスタッフは本社で新人研修を受けてもらいます。現場研修が終わった後に必ず集合研修を受けてもらっています。また、ドライバーをはじめ、倉庫スタッフ、管理職など職種別の研修も実施しています。今年4、5月にも職種別の研修を行いました。全4回計80人が全国から集まりました。ドライバーさんについては特に月一度の追走運行チェック、覆面指導を

3年前ぐらいから4t車から増t車（総重量で11t以下）の切り替えを急ピッチで進めています。積載量が倍ぐらになり、過積載を防ぐことができます。そのための免許取得に伴う費用助成制度を社内で確立して、ド

ライバーさんにはいち早く増t車に乗ってもらえるようにしています。現在、当社の約4

割が増t車に切り替わっています。今後数年で100%にしたいです。

ライバーさんにはいち早く増t車に乗ってもらえるようにしています。現在、当社の約4